

日本理学療法士協会モデル事業
(士会事務局強化補助金事業)
最終報告書

平成31年3月31日

公益社団法人 和歌山県理学療法士協会

1. 平成 29 年度

1) 職員配置

[非常勤] 所 長：中前和則（県士会長兼務）

準備室長：林元光広（県士会地域包括ケアシステム推進局担当理事・和歌山市中支部長兼務）

事務員：1 名

2) 圏域支部

県内 11 支部に細分化、支部長を配置

3) 事務員への OJT

準備室長からは和歌山市委託事業について、その他は事務局長・財務局長から OJT 実施

4) 事務局機能の移行

県補助金事業・自治体委託事業等の派遣調整（8 市町に対応）、日当・交通費の支払い業務、各種報告書作成・提出について、徐々に業務を移行

5) 支部長との情報共有

11 支部長の情報共有プラットフォームとしてサイボウズを活用、これにて他支部の動向を知ることができ、先進支部の取り組みについて共有することが可能となった

6) 意向調査の実施と情報共有

地域ケア会議へのアドバイザー、介護予防事業への参画に関わる意向の有無について調査を実施、データを各支部長へ提供、これに基づいて派遣調整を行いやすくしている

2. 平成 30 年度

1) 職員配置

[常 勤] 所 長：中前和則（県士会長と兼務）

[非常勤] 準備室長：林元光広（和歌山市中支部副支部長兼務）

事務員：2 名（ほぼ常勤の 1 名と非常勤 1 名）

2) 圏域支部

活動が活発化してきたため、副支部長を配置

3) 事務員への OJT

ほぼ常勤の事務員から非常勤事務員へ OJT にて育成中

4) 事務局機能の移行

県補助金事業・自治体委託事業等の派遣調整（13 市町に対応）、日当・交通費の支払い業務、各種報告書作成・提出について、ほぼ完全に業務を移行

5) 支部長との情報共有

情報共有プラットフォームとして活用してきたサイボウズのサービス終了に伴い、暫定的に BAND への移行を進めているが、将来的には他の有料グループウェアの使用を検討中

6) 意向調査の実施と情報共有

地域ケア会議へのアドバイザー、介護予防事業への参画に関わる意向の有無についての調査を毎年実施することにより、会員への啓発も行うことができている。年々増加してきている自治体からの派遣依頼に対応する際の貴重な情報源になっている

3. 成果（図 2～5 参照）

1) 県士会事務局・財務局の業務が大幅に軽減、県補助金事業・自治体委託事業に関する事務作業の殆どを事務員レベルで処理可能となり、担当理事・支部長の業務負担も大幅に軽減された

2) 他支部の動向が把握できるようになり、副支部長も配置したことから、支部の活動が活発化している

3) 和歌山市委託事業（WAKAYAMA つれもて健康体操）については、市担当課とのやりとりが難しい局面が多々あったが、所長が常勤化してからは、市長との面談を行ったり、担当課の責任者と連絡を

- 密にすることで、僅かではあるが、当協会の提案を受け入れてくれるようになってきた
- 4) 県や自治体に、サポステと支部が窓口であるという認識が広まってきており、より地域の実情に応じた話し合いが行いやすくなってきている
- 5) 県や自治体から報酬について相談される場合、支部長ではなくサポステが対応することで、支部長の負担を軽減することができた

図1 モデル事業 ポンチ絵

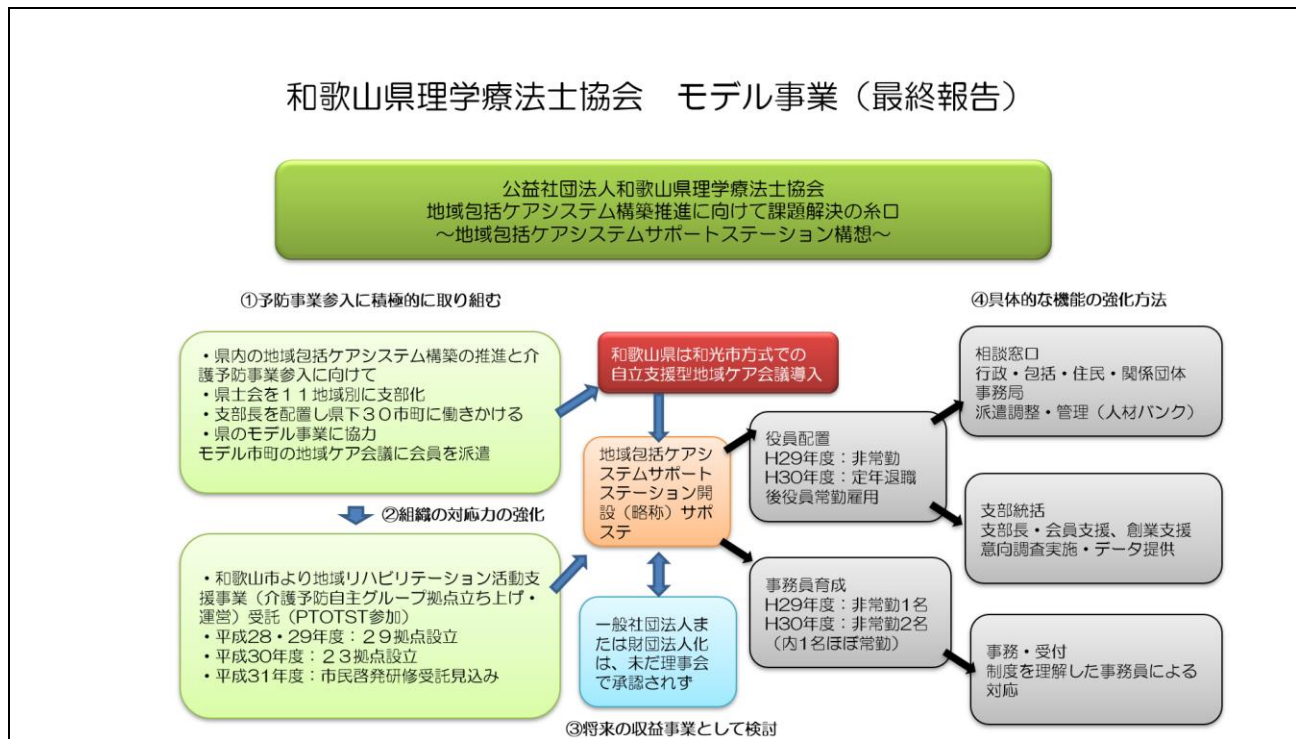


図2 県内PT 参画状況

和歌山県のPT参画状況

★両方参画 ○地域ケア会議参画 ●介護予防参画（H31.3月末現在）

市町村	H28	H29	H30	市町村	H28	H29	H30	市町村	H28	H29	H30
和歌山市	★	★	★	かつらぎ町			○	みなべ町			
海南市	★	★	○	九度山町	○	★	○	日高川町			
橋本市		○	○	高野町				白浜町		●	
有田市			○	湯浅町			○	上富田町			○
御坊市			●	広川町			○	すさみ町			
田辺市				有田川町	○	○	○	那智勝浦町			
新宮市	○	●	○	美浜町				太地町		●	
紀の川市		★	★	日高町				古座川町			
岩出市	★	★	★	由良町				北山村			
紀美野町	●	●	★	印南町		★	●	串本町	●	●	

図3 和歌山市委託事業 実績

〈和歌山市委託事業〉
自主活動グループ拠点立ち上げ応援事業 実績
(WAKAYAMAつれもて健康体操)

	自主グループ 拠点数	住民参加者数 (概数)	派遣PT (※①)	派遣 OT	派遣 ST	3か月派遣 PT (補助者)	12か月派遣 PT (補助者)
H28年度	29拠点	654名	87名	29名	29名	27名 (38名)	0名
H29年度	29拠点	568名	87名	29名	29名	25名 (49名)	28名 (43名)
H30年度 (H31.1.31現在)	23拠点	約284名	60名	19名	19名	22名 (22名) ※②	13名 (14名) ※②
計	81拠点	約1,506名	225名	77名	77名	74名 (109名)	41名 (57名)

※①1拠点あたりの派遣PTは事前打合せ会議・派遣①・派遣②
(H29年度からは事前打合せ会議・派遣①・派遣④) ののべ3名で計算
※②H30年度補助者数は暫定値

図4 紀の川市委託事業 実績

〈紀の川市委託事業〉
紀の川てくてく体操 実績

	自主グループ 拠点数	住民参加者数 (概数)	派遣回数	行政PT	派遣 療法士	PT実人数	OT実人数
H27年度	11拠点	198名	69回	0名	8名	8名	0名
H28年度	25拠点	568名	277回	1名	11名	10名	1名
H29年度	15拠点	715名	264回	1名	23名	20名	3名
H30年度 (H31.3.22現在)	24拠点	1219名	245回	1名	21名	17名	4名
計	75拠点	2700名	855回	1名	63名	55名	8名

参加人数：初回の体力測定実施人数より算出
立ち上げ支援：5回×立ち上げ拠点数
継続支援：3ヶ月～4ヶ月に1回の派遣×拠点数

図5 岩出市委託事業 実績

<岩出市委託事業> 岩上げんき体操応援講座 実績							
	自主グループ 拠点数	住民参加者数 (概数)	派遣PT (※①)	歯科 衛生士	6か月派遣 PT	12か月派遣 PT	途中派遣
H28年度	2拠点	31名	2名		2名	2名	1名
H29年度	5拠点	76名	23名	4名	3名	1名	
H30年度 (H31.2.28現在)	4拠点	38名	12名	4名	16名	12名	
計	11拠点	139名	37名	8名	21名	15名	

4. 今後の展望

- 1) 活発化してきた支部については、支部内に市町担当副支部長を配置しつつあるが、この市町を支部に昇格して、同時に副支部長を支部長に昇格することで、地域の活性化を更に促すことができ、現支部長の負担を軽減することができる
- 2) 事務局・財務局の業務を事務員レベルで処理できるようになることで、同局担当理事の世代交代が行いやすくなる
- 3) 県士会に設置されている各局主催の事業については、当該局担当理事をはじめとする、部長・部員を中心に運営が行われるため、一般会員にとってはブラックボックス状態で、県士会と一般会員との距離は広がるばかりだが、支部長・副支部長を通じて、支部員（会員）と交流する機会や地域で活動する機会が増えることで、「入会しているメリットがない」という理由で休会・退会する会員を減らすことができる
- 4) 今後益々、自治体委託事業が増えることになれば、サポステ業務の重要性も増す。その際には実働部隊としての理学療法士をサポステに複数名雇用して、地域の要請に答え得る体制をつくる必要がある。子育て等で現場を離れている会員の受け皿としても機能するようになれば、多様な働き方も提案できるようになり、協会員であるメリットを実感できる会員が増えることが期待できる
- 5) 有料グループウェアを活用することにより、それぞれの支部の活動履歴を知ることができ、また、他支部の状況を知ることにもできる。広く支部員（会員）にも、各支部の状況を公開することにより、地域との関りを積極的に考える会員が増えることが期待できる

以上